

3. 流域の社会状況

3-1. 土地利用

大淀川流域2,230km²のうち山地面積は67.3%を占め、自然公園も218.7km²（9.9%）も占めている。

土地利用としては農業、森林地域が広く、宅地化は上流部都城、下流部宮崎市に集中している。

表 宮崎市土地利用(民有地)面積の推移 単位:km²

年 項目	昭和40年	昭和50年	平成元年	平成12年
山林・原野	30.5	(0.92) 28.0	(0.93) 28.4	(0.98) 29.9
田・畑	74.4	(0.92) 68.6	(0.76) 56.5	(0.60) 44.6
宅地	10.3	(1.75) 18.0	(2.56) 26.4	(3.11) 32.0
その他	2.1	(2.62) 5.5	(3.00) 6.3	(8.90) 18.7
総面積	285.9	286.0	285.9	287.0

注) () は昭和40年に対する割合

総面積以外は、固定資産税課税に係る評価総地積(民有地面積)

(出典) 宮崎県統計年鑑

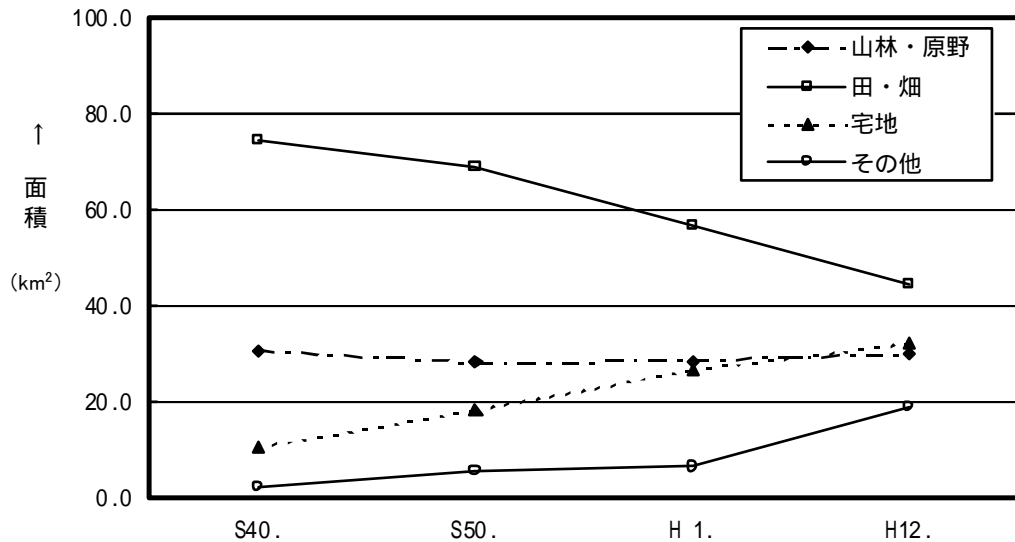
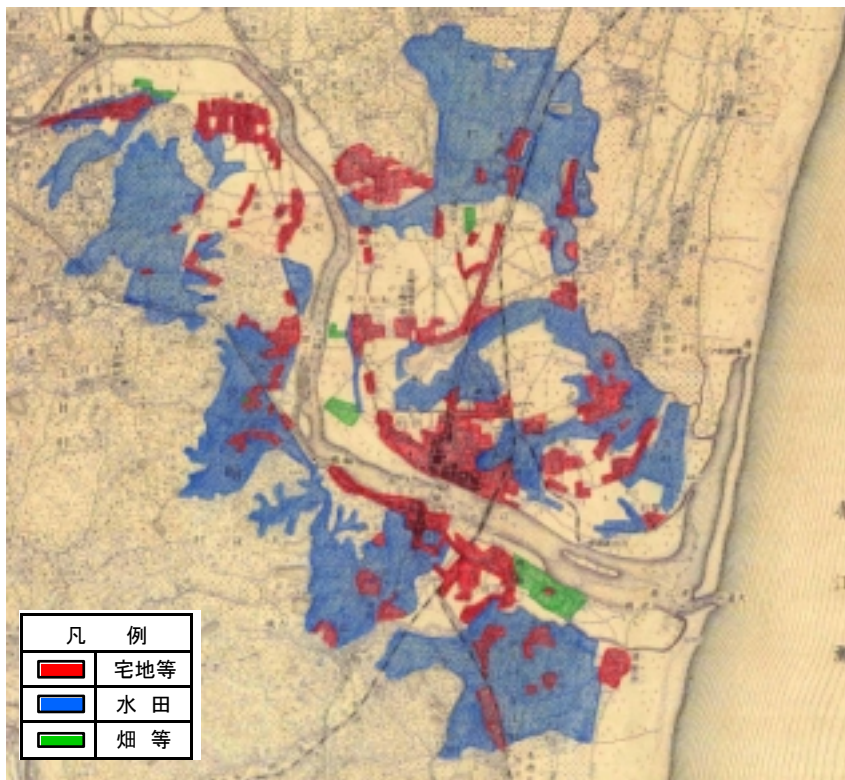
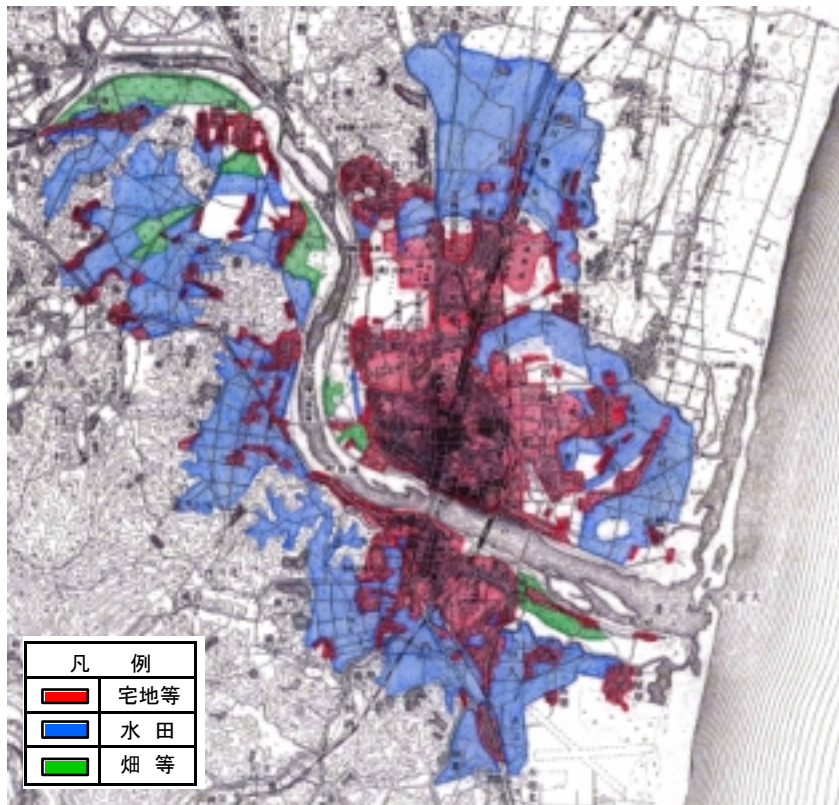


図 宮崎市土地利用の推移

[大正6年頃]

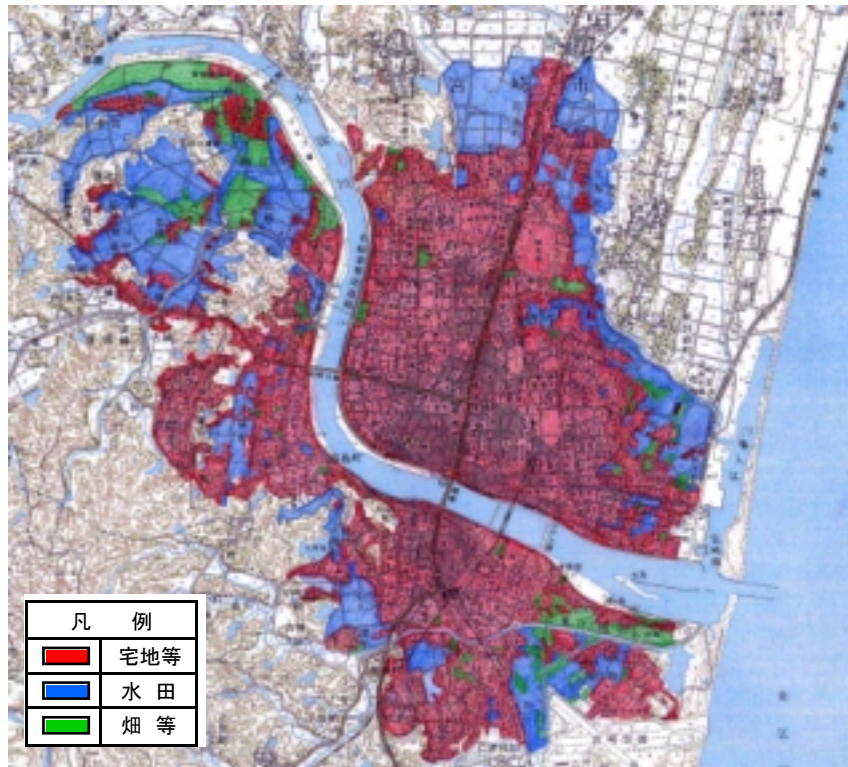


[昭和29年頃]

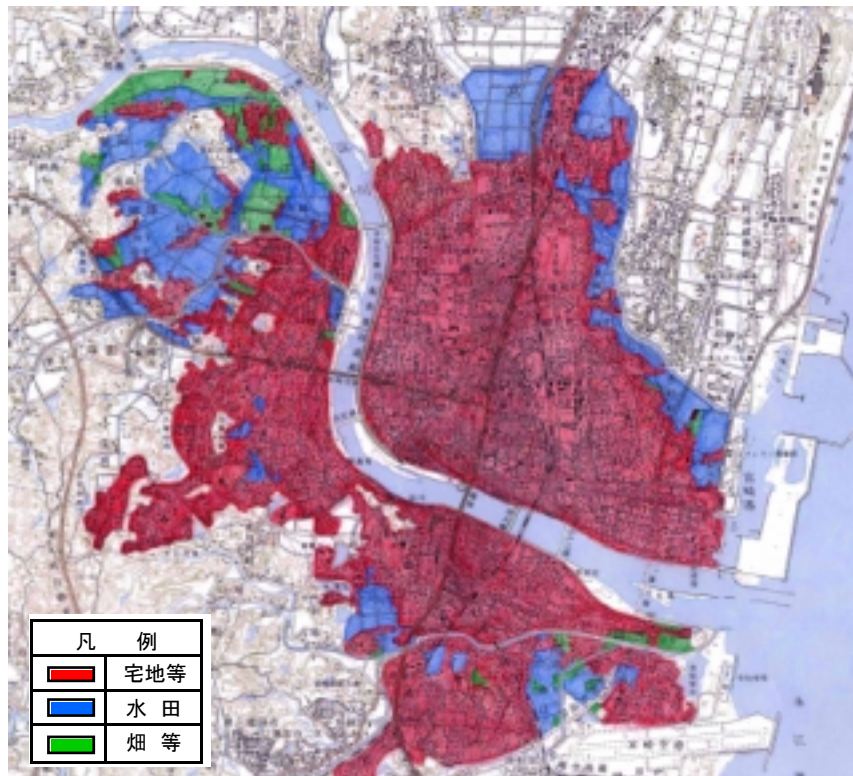


土地利用の経年変化図（宮崎市）

[昭和56年頃]



[平成12年頃]



土地利用の経年変化図（宮崎市）

表 都城市土地利用(民有地)面積の推移 単位: km²

年 項目	昭和40年	昭和50年	平成元年	平成12年
山林・原野	5.6 <44.3>	(1.23) 54.5	(1.23) 54.5	(1.02) 45.4
田・畑	58.3 <100.3>	(0.98) 97.9	(0.89) 89.1	(0.79) 79.2
宅地	9.9 <12.9>	(1.36) 17.5	(1.95) 25.1	(2.51) 32.4
その他	0.1 <0.1>	(8.00) 0.8	(34.00) 3.4	(156.00) 15.6
総面積	231.4 <306.7>	306.7	306.7	306.2

- 注) 1. () は昭和40年に対する割合
 2. 総面積以外は、固定資産税課税に係る評価総地積(民有地面積)
 昭和40年は、中郷村、荘内町合併前であることによる。
 3. 昭和40年 値は、中郷村、荘内町を合わせた値。
 (出典) 宮崎県統計年鑑

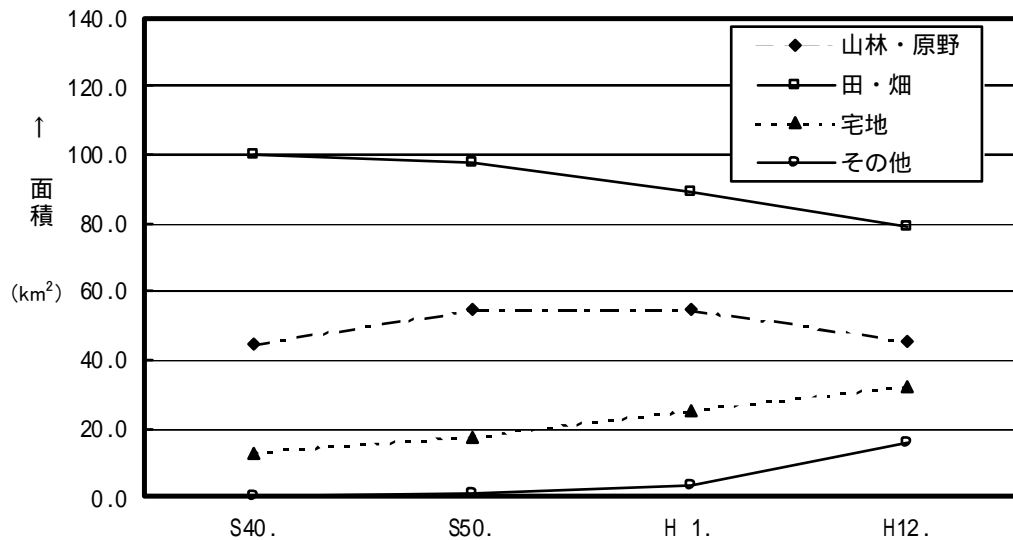
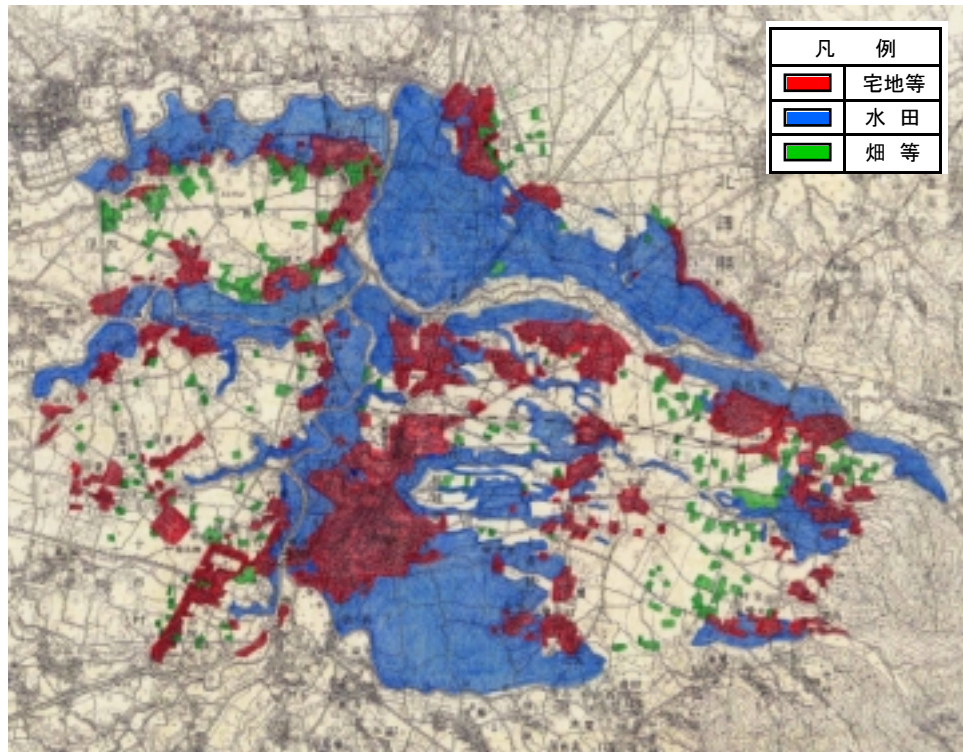
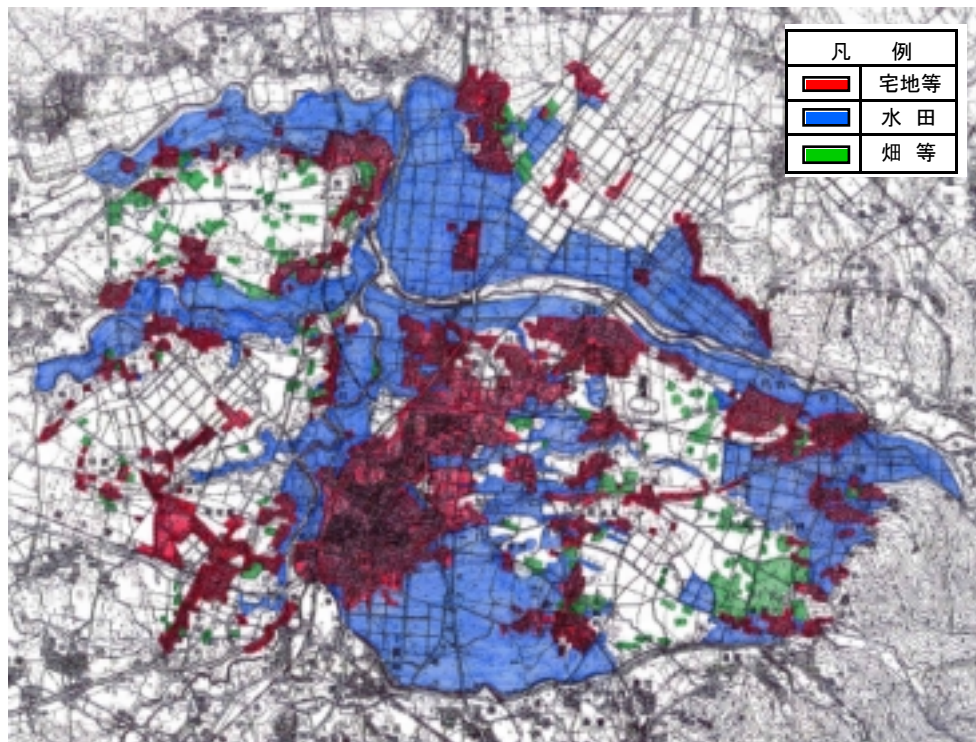


図 都城市土地利用の推移

〔大正6年頃〕

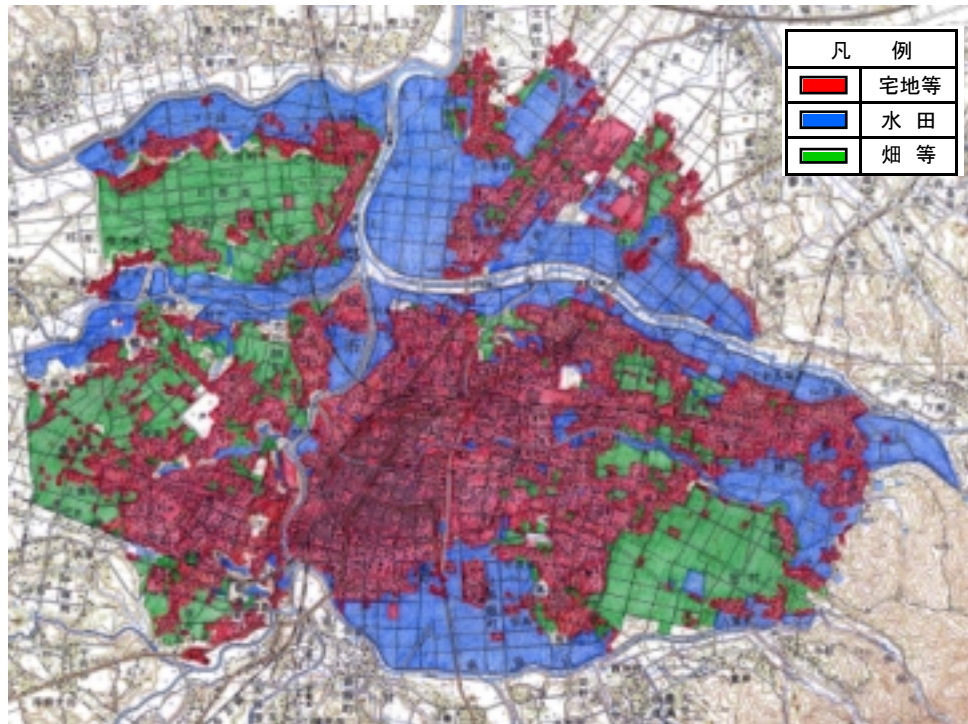


〔昭和29年頃〕

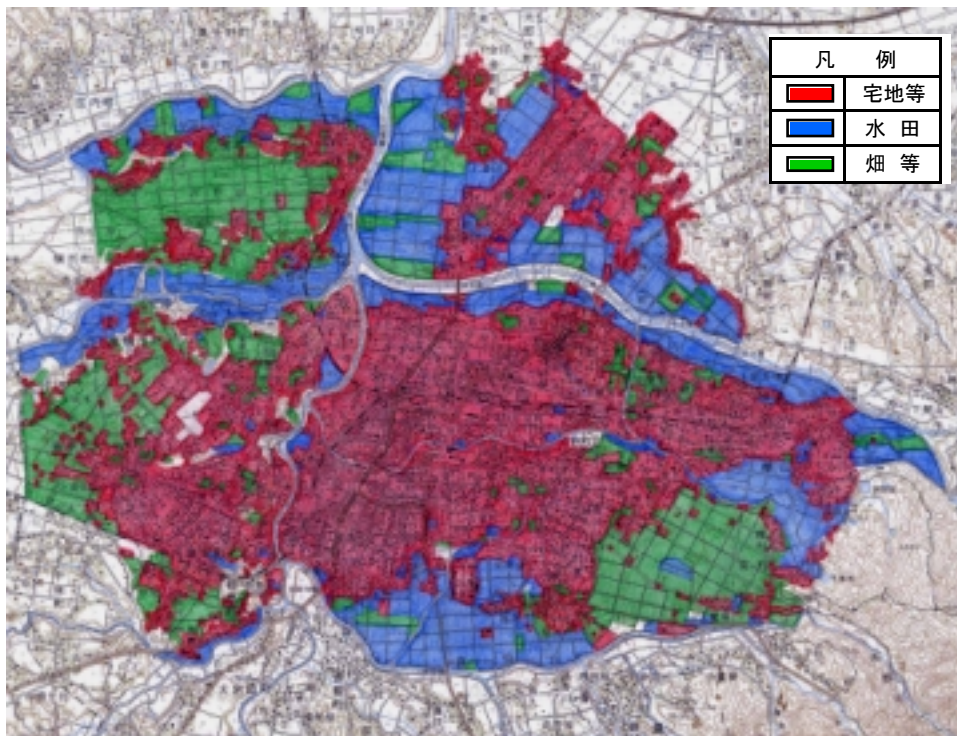


土地利用の経年変化図（都城市）

[昭和57年頃]



[平成6年頃]



土地利用の経年変化図（都城市）

3 - 2 人口

大淀川流域内の人口は約59万人（平成2年調査）で、人口密度は約260人 / km²である。
特に宮崎市の人口の増加率は高く、昭和40年（現工事实施基本計画策定年）からは約65%となっている。

表 流域内主要都市人口の推移

年次 区分	昭和35年 (人)	昭和40年 (人)	昭和45年 (人)	昭和50年 (人)	昭和55年 (人)	昭和60年 (人)	平成2年 (人)	平成12年 (人)	人口密度 (人/km ²)
流域内	434,708	436,968		509,101	567,377	566,554	585,767		
宮崎市	166,360	182,869	202,861	234,347	264,855	279,114	287,352	305,755	1,068
都城市	121,497	118,582	114,799	118,289	129,009	132,098	130,153	131,922	431
小林市	43,878	41,922	38,674	38,325	40,033	40,976	41,048	40,346	175

注) 面積：宮崎市286.4km²、都城市306.2km²、小林市230.7km²（県統計年鑑）

人口はS35～55年：国勢調査、S60～：県統計年鑑より、H12値は官報告示（H13.8.22）より
また、流域内人口は河川現況調査。

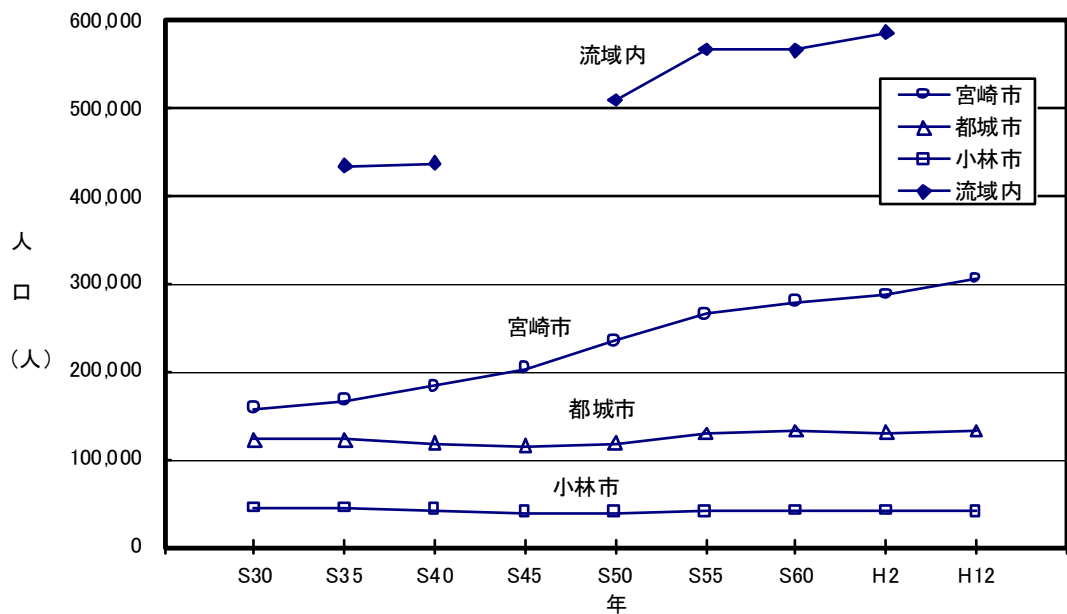


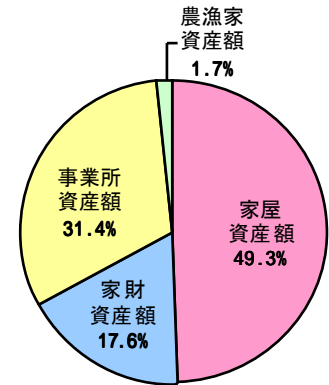
図 宮崎市、都城市、小林市の人口推移図

3 - 3 産業経済

流域内の総資産額は平成2年時点で約5兆5579億円で、その約半分は家屋資産が占めている。

流域内資産額 (単位:百万円)

家屋資産額	家財資産額	事業所資産額	農漁家資産額	合計
2,741,817 (49.3)	978,915 (17.6)	1,745,875 (31.4)	91,285 (1.7)	5,557,892 (100.0)



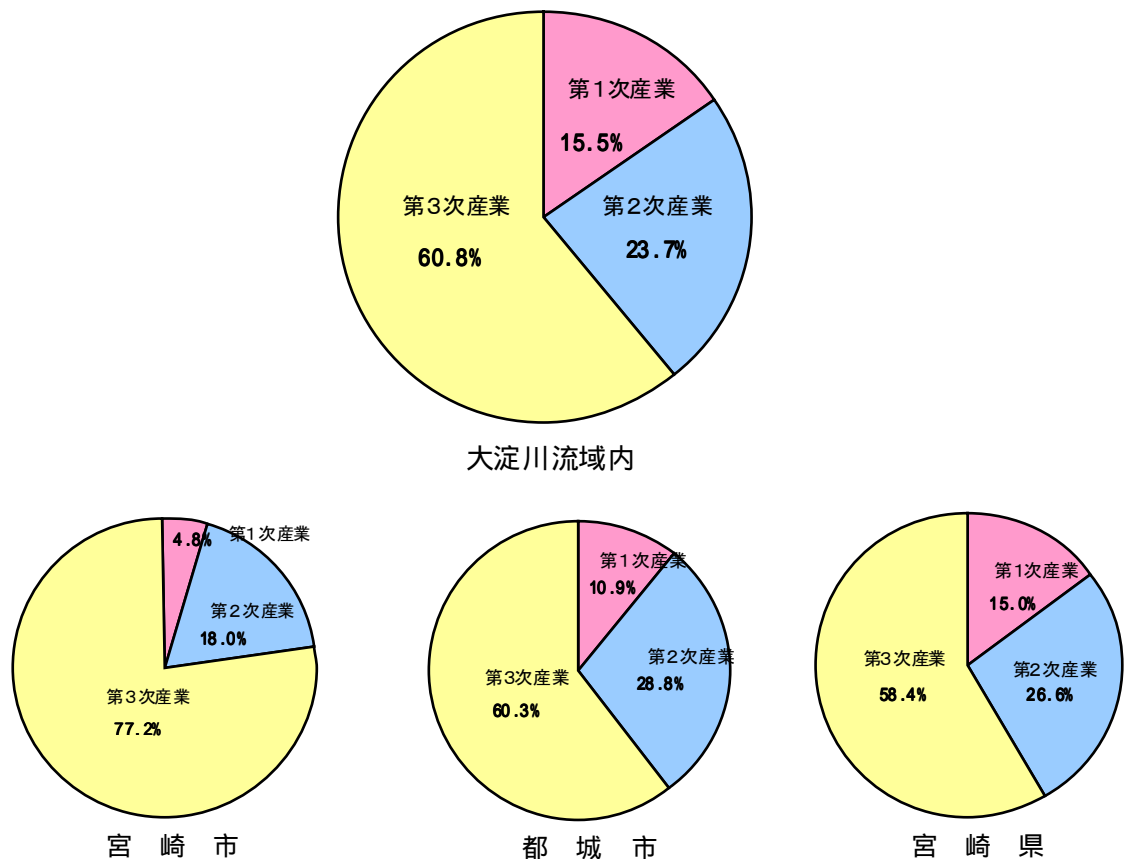
注) () 書きは合計に対する比率
出典：河川現況調査（基準年：平成2年）

表 就業者の産業構成

項目	大淀川流域		宮崎市		都城市		宮崎県	
	就業者数	割合 (%)	就業者数	割合 (%)	就業者数	割合 (%)	就業者数	割合 (%)
第1次産業	43,752	15.5	7,157	4.8	6,961	10.9	87,219	15.0
第2次産業	67,126	23.7	26,836	18.0	18,483	28.8	154,765	26.6
第3次産業	171,863	60.8	114,908	77.2	38,622	60.3	340,121	58.4

(出典) 大淀川流域...河川現況調査(基準年 平成2年)
宮崎市、都城市、宮崎県...平成12年度 宮崎県統計年鑑(基準年 平成7年)

図 産業構成図



3 - 4 交通

大淀川流域の道路は、高規格幹線道路で宮崎からえびのへ至る九州縦貫自動車道宮崎線が昭和56年10月に開通し、さらにえびの～人吉間の開通により、九州各地はもちろん、本州、四国とも結ぶ交通の大動脈として期待される。

また、国道は北九州市から九州の東側を通り、宮崎市、都城市を経て鹿児島市へ至る国道10号を初め、熊本県人吉市を起点とし都城市へ至る国道221号、小林市を起点とし鹿児島県霧島町を経て隼人町へ至る223号、熊本県水俣市を起点とし小林市を経て高岡町へ至る268号、鹿児島県指宿市を起点とし宮崎市へ至る269号等、九州南東部の主要な道路が流域内を通過している。

鉄道は北九州と鹿児島を結ぶJR日豊本線が流域を横断し、さらに、途中都城からJR吉都線が分岐し、えびの方向へ延びている。

日豊本線は大分市、延岡市、宮崎市等の主要都市を結ぶ九州東側の幹線鉄道であり、地域の発展に重要な役割を果たしている。一方、宮崎県内の重要港湾である宮崎港、空の玄関口である宮崎空港は近年、JRの乗り入れや施設の改築が図られ、利用状況を見ても順調な伸びを示すなど、物資等の輸送に大きな役割を果たしている。

また、これからの道路整備として、拠点都市間の1時間構想や宮崎都市圏における宮崎環状道路、さらには都城市から鹿児島県の中核国際港湾志布志港とを結ぶ地域高規格道路等の広域的な整備により、当流域における産業や地域の発展について、今後大いに期待できるものと考えられる。

3 - 5 将来構想

宮崎県の県都及び第2の都市を抱える当流域は、産業、経済、教育、文化等多くの面で県下の牽引的な役割を担い、広い分野で拠点的な役割を果たしている。

また、県の長期計画においても地域別圏域を設定し、圏域の特性を生かした地域づくりや圏域内外との交流連携等により、各地域の資源や魅力を共有し、特色ある県土空間の創造を進めている。

宮崎県地域道路整備計画図



大淀川流域交通体系図

